

深川消防団ニュース



# さきもり

発行：深川消防団

所在地 〒135-0042  
東京都江東区木場  
3丁目18番地10号  
深川消防団本部

TEL:03-3642-0119  
FAX:03-3641-4422

## 「さきもり第30号」で発行10周年となりました！

創刊号平成 18 年 1 月 8 日～第 30 号平成 28 年 1 月 10 日

さきもり十周年を迎えて



第十二代  
深川消防団長  
小安 勤

この度、深川消防団ニュース「さきもり」が十周年を迎え、心からお喜び申し上げます。発行して十年という節目を迎え、これまで各分団編集員の皆様にご協力いただき、広く多くの皆様に私たちの活動が伝わり、大変嬉しく感謝申し上げます。

今日までの「さきもり」を見ていますと、その時々話題になった活動など、懐かしい気持ちに駆られます。これがいづれ深川消防団の歴史と伝統の一ページになればと思っています。「さきもり」は、深川消防団の様々な地域活動や災害活動そして訓練活動を通じて、地域の安全安心に積極的に取り組んでいる姿を知っていただき、地域の皆様方に更なるご理解と信頼を深めて参りたいと思います。

さて、四年後には、東京オリンピック・パラリンピック大会が開催されますが、江東区には多くの競技場が予定され、多くの人たちが訪れ期待される地域でもあります。そして今年十一月には、豊洲新市場の開場、更に、深川消防署豊洲出張所・枝川出張所新庁舎が完成され、消防団本部施設も併設されます。消防団装備の充実も図られるとともに、地域活動も広範囲となって参ります、今後とも、皆様方のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

「さきもり」発行にご尽力頂いた方々



第十一代団長  
形屋 憲一  
第19号～第24号



第十代団長  
今井 一夫  
第14号～第18号



第九代団長  
増茂 洋之進  
第2号～第13号



第八代団長  
唐鎌 五郎  
創刊号



第七代団長  
永井 昭次  
発行計画



第六代団長  
武藤 庄一  
発行計画



記念号の編集者一同

編集補佐  
第一分団  
副分団長 長谷川 祐二  
編集員  
第八分団  
部長 庄井 勤

創刊時からの編集者

編集責任者  
副団長 岩崎 勝  
編集補佐  
団本部分団長 宮内 保夫

創刊時編集者

第一分団 受持区域の紹介

深川の鬼門を守る 『第一分団』

第一分団の受持区域は、首都高速9号線を北側に、残り三方を横十間川、大横川、そして小名木川の三つの河川に囲まれた区域となります。

この区域に毛利一・二丁目、住吉一・二丁目、そして猿江一・二丁目と六ツの町会を担当しています。

地域には自然豊かな猿江恩賜公園があり、桜の季節などは一際華やかで、住民の憩いの場所となり、更に、災害時には避難場所にもなっています。地域最南端には猿江神社があり、地域の平安を守っています。



(上) 猿江恩賜公園  
(右) 猿江神社

第二分団 受持区域の紹介

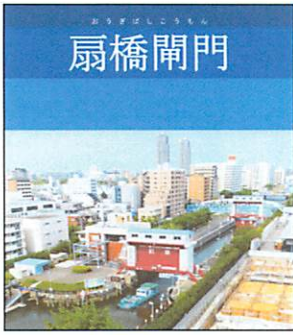
十七の橋に囲まれ！

地理的には江東区中央北部に位置しています。受持区域は、深川八ヶ町連合町会（扇橋一・二・三、海辺、石島、千田、千石一・二・三丁目町会）です。

北側に小名木川、東に横十間川、西に大横川、南に仙台堀川と四方を河川に囲まれ南北に四つ目通り、東西に清洲橋通りが通る。

宇迦八幡宮に守られ、都立大江戸高校、深川第四中学校、扇橋・川南小学校があります。本年二月に分団施設ができ可搬ポンプ積載車が配備されました。これにより、新たな消防団活動ができるようになりました。

名所としては、第一分団との境を通る小名木川に、扇橋閘門という水位を調整して船を航行させる設備があります。通称「ミニパナマ運河」



東京でもめずらしい設備です

第三分団 受持区域の紹介

江戸時代に松尾芭蕉が！

北側は墨田区、南は小名木川を挟んで4分団、東は大横川を挟んで1分団、西は隅田川に囲まれています。

森下一・二・三・四・五丁目、高橋、新大橋一・二・三丁目、常磐一、二丁目からなるのが3分団受持地域です。

分団本部施設は新大橋三丁目にあり可搬ポンプ積載車が配備されています。深川七福神の一つ「寿老人」、深川神明宮、俳人松尾芭蕉の「芭蕉記念館」があります。また、パン製造販売カトリアの元祖カレーパンは名物です。



深川神明宮

第四分団 受持区域の紹介

寺と相撲部屋と現代美術館！

四分団は、清澄・白河・三好・平野の全域が受持区域です。この地域は以前、寺院と清澄庭園と相撲部屋だけの街でしたが、大江戸線に続き半蔵門線が入り、木場公園の中に現代美術館が出来る、さらにブルーボトルコーヒーを筆頭にカフェが続々とオープンするなど、発展が著しいところでは、

数年前までは、お彼岸やお盆にしか賑わなかったのですが、最近では、現代美術館・深川江戸資料館、カフェに於ける国内外の観光客で常に賑わっています。



第五分団 受持区域の紹介

赤穂浪士も渡った永代橋！

深川第五分団の受持区域は、深川一・永代・佐賀・福住・門前仲町一丁目、下町の住宅とマンションが混在していますので両方に対応すべく日々、防災訓練を行っております。

有名なものとしては、平成19年に国の重要文化財（建造物）に指定された永代橋があります。永代橋は赤穂浪士が討ち入りの帰りに渡った橋として有名で、橋の近くには赤穂浪士休息地の碑が立っております。

八幡本祭りの際は神輿連合渡御で永代橋を渡ります。放水訓練（水掛け）や特別警戒で深川消防団も携わっております。



「帝都東京の門」と言われた

元禄11年(1698)初架、現在の橋は関東大震災後の帝都復興事業のシンボルとして架けられ、橋梁技術史上、非常に高い価値があります。

第六分団 受持区域の紹介

八幡様とお不動さん

第六分団は、八幡様・不動尊・永代寺を中心に北側明治小・数矢小・深川第二中・赤札堂南側・越中島区営プール・深川スポーツセンター・古石場保育園・文化センター(図書館)・琴平幼稚園・越中島小・深川第三中学・都立第三商業高・海洋大と成っています。

越中島は学校が全部そろっているよ。

受持区域は、深川二丁目・冬木町・門前仲町二丁目・富岡一・二丁目・牡丹一・二・三丁目・古石場二丁目(西・東)・古石場二丁目・琴平町会(2・3)・越中島一・二・三丁目となっています。分団本部施設は冬木町亀久橋横です。地域の皆様どうぞよろしく願います。



分団本部施設(亀久橋)と富岡八幡宮

第七分団 受持区域の紹介

「学んで・体験して・見て」の防災訓練を実施!

我が分団は、木場町会(一・二・三・四・五・六)全て受持区域です区域内には深川消防署本署、都立木場公園(葛西橋から南)、深川警察署があります。春の火災予防運動に伴う、深川ギャザリア、イトーヨーカドー木場店前広場にて「学んで・体験して・見て」という防災訓練があります。

夏には、富岡八幡宮・洲崎神社等の祭り警戒、秋には、東陽・木場地区連合町会防災訓練。洲崎神社は、徳川綱吉公の生母「桂昌院」の守り神、当時は海岸にして絶景、珠に弥生の潮時には真砂の蛤を捜り楼船が。



洲崎神社と津波警報の碑

第八分団 受持区域の紹介

材木置き場がマンションに!

第八分団は、東陽地区全体の東陽一丁目から七丁目までが受持区域です。

江東区役所、ホテルイースト21東京など区の中心施設が多くあり、高層階の火災も起き、我々分団員は日頃より高層階火災への対応訓練を積んでおります。また、地下鉄東西線東陽町駅は一日の平均乗降客数が12万人のぼり、乗り換えのない単独駅としては日本一の数といわれています。

近年は材木置き場の多かった時代とは様変わりを見せ、マンションやオフィスビルが多くなり耐火化が進んでおります。



江東区役所

第九分団 受持区域の紹介

建替えられる枝川出張所内に分団本部施設を併設!

第九分団受持区域は、枝川・塩浜・潮見地域で構成されており、潮見には、東京消防庁潮見訓練場があります。

地域の中では、各所で夏祭り神輿巡行では、水掛けとしての放水訓練を行ないます。

秋には連合十六の町会・自治会(特徴の一つ)も行われています。

消防団・地域・学校が助け合いながら安全な街づくりに取り組んでいます。

また、今年建替えられる枝川出張所内に分団施設本部が併設されます。



神輿への放水訓練

第十分団 受持区域の紹介

建替えられる豊洲出張所内に分団本部施設を併設!

豊洲、東雲、辰巳、有明、青海一・二丁目と、深川消防団の中で一番広い区域を受持っている第十分団です。

江東区では海側埋立地なので、深川下町というイメージとは違う町並みですが、道路や歩道も広くできています。広大な公園、緑も多く、お散歩しながらのんびり過ごせる地域です。また、東京オリンピック・パラリンピック開催に向け町並みが変わって行くのかなあと思っ

ています。第十分団も、今年建替えられる豊洲出張所内に分団施設本部が併設されます。



(仮)豊洲出張所内の防災資機材格納庫

さきもり十周年にあたり



編集委員長  
副団長  
岡本 繁

さきもり十周年記念号発行に、編集委員長として携わる事が出来ましたこと、団員の皆さま、そして、分団編集委員の皆さまに誌面をおかりしまして感謝申し上げます。

振り返りますと、平成十八年一月八日、第一号(創刊号)が発行され、以降三十号まで発行されていますが、発行当時より今号まで編集員の皆さまは生業のかたわら、毎号記事の作成や写真などを持ち寄り、2、3回の編集会議を経て発行していますが、その苦労は大変な事と思います。

最後に、現編集員そして、今後携わるであろう編集委員の方々には、深川消防団のため、深川消防団広報紙「さきもり」を、さらに充実させて頂き、末永く発行されます事を期待しております。有り難う御座いました。



さきもり十周年に思い



編集責任者  
団本部分団長  
椎名 貞雄

「さきもり」発行にあたり、当時の編集委員は、各分団より選ばれて、発行することでした。

広報紙の名前を考えた(後で、紹介します)幾度も編集会議をしたりと、今思えば、皆さん初めての事ばかりだったと思います。

その、ご苦労は並大抵ではなかったのではと、想像致します。

先人達が作り上げた。深川消防団広報紙「さきもり」はこれからも、10年・20年・30年と続くことと思います。

これからも、団員そして編集委員の皆さまと共に、発刊の初心を忘れず、どんなによいものを取り入れながら、消防団活動を、団員はもとより地域の皆様に広報出来ますよう、より良い誌面作りを心がけまして、深川消防団広報紙「さきもり」発行に努めたいと思います。

これからも、「さきもり編集部」に多くのご意見を頂きますとともに、今後とも、編集にご理解、ご協力のほど、宜しくお願い申し上げます。

さきもり発行十周年を祝し



深川消防署長  
小黒 幸義

深川消防団の広報誌「さきもり」が発行から今年で10年目の記念すべき節目の年を迎えられたことに心よりお祝い申し上げます。

第一号が平成十八年一月八日に発行され、各分団から選出された編集員の皆さんによる熱心な取り組みと地道な努力により継続されてきたことに対し、感謝と敬意を表するものであります。

広報誌「さきもり」により消防団員相互の情報の共有化が図られ、深川消防団全体の活性化にも大きな貢献を果たしているものと思います。

結びに、深川消防団が小安団長を中心に益々ご発展され、深川管内の安全安心を確保するため、防災リーダーとして活躍されることを祈念申し上げます。お祝いの言葉といたします。



さきもり編集委員

分団名	任	務階級	氏名
団本部	監	修 団長	小安 勤
団本部	編集委員長	副団長	岡本 繁
団本部	編集責任者	分団長	椎名 貞雄
一分団	編集補佐	副分団長	長谷川 祐二
一分団	委	員 班長	宮島 慎一
二分団	委	員 班長	平林 忠之
三分団	委	員 班長	中島 紗江子
四分団	委	員 班長	正本 光生
五分団	委	員 班長	圓城寺 正和
六分団	委	員 班長	高野 俊勝
七分団	委	員 班長	武藤 壽子
八分団	委	員 班長	庄井 勤
九分団	委	員 班長	岩淵 初美
十分団	委	員 班長	榎山 美恵子

誌名「さきもり」について

「防人」は、奈良時代の前後に北九州の要地の守備にあたった兵士、すなわち要地を守る人のことを言われたものです。現代に置き換えて考えれば、我々消防団員も、火災・水害・地震、など多くの災害から地域の安全・安心を守るために日々活動している訳です。云わば地域社会を災害から防ぐ「人々の集団」であります。

この事から我々、消防団員は現代の災害の「防人」に近いのではないだろうか。

そこで、この「防人」から「さきもり」として誌名としました。

(創刊号からの転用)